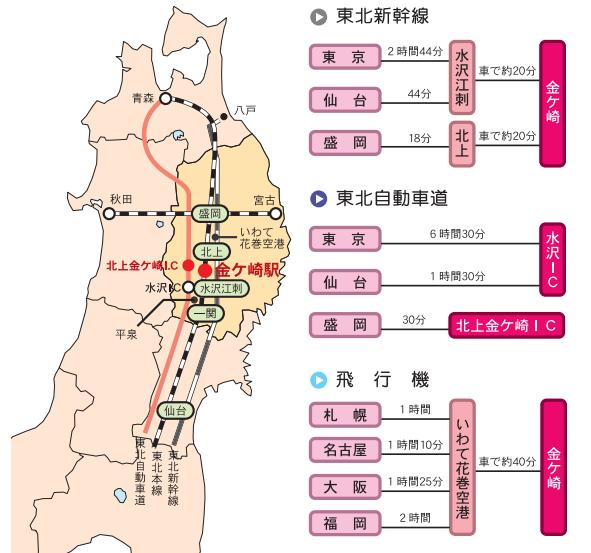


金ヶ崎町へのアクセス



城内諏訪小路地区を学ぶ

金ヶ崎要害歴史館

江戸時代の仙台藩要所「金ヶ崎要害」の歴史文化、侍屋敷とその町並みについて、展示や映像を通して詳しく知ることができます。

開館／9時～17時 休館／月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
観覧料／大人200円(20名以上150円) 高校生以下無料
TEL／0197-42-3060

城内諏訪小路地区を歩く

※地区内の公開施設以外は中に入って見学できません。

小路(道路)からの景観をお楽しみください。

※ガイドによる地区案内(有料)をご希望される方はこちらへご連絡ください。

白糸まちなみ交流館

開館／9時～17時 休館／木曜日、年末年始
TEL／0197-41-2355

国選定 金ヶ崎町城内諏訪小路 重要伝統的建造物群保存地区



藩境の緑ゆたかな要害 ガイドマップ

岩手県金ヶ崎町



⑤ 伊東家侍住宅

伊東家は六軒丁北西側、表小路との境に位置します。敷地は約750坪あり、生垣、庭、主屋が残っています。主屋は桁行7.5間、梁間4.5間の整型田の字型4間取りです。平成19年一部創建時に復原しました。

公開／11時半～16時
休／火曜日
TEL 0197-34-3008 (敷地内に駐車場あり)

⑦ 大松沢家

大松沢家は山林奉行を務めたことがあります。位置は表小路と達小路の樹形道路沿いです。敷地は760坪あり、四脚門(江戸時代後期)、板塀石積み、エグネ、庭園が残っています。築山を中心とした大庭園でエノキ、カエデ等の巨木があります。

公開／11時～16時
休／月曜日
TEL 080-5552-2071 (隣に駐車場あり)

⑥ 土合丁・旧大沼家侍住宅 (町指定文化財)

大沼家は大町氏の家臣で、正保元年(1644)大町氏が藤沢から移封となったときにお供してきました。「大沼家先祖書留」には文化14年(1817)に古家を拝領したとの記述があります。主屋は桁行7.5間、梁間4.5間の喰い違い4間取りです。平成23年創建時に復原しました。

公開／9時～17時
休／月・火曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始
TEL 0197-42-2343

⑧ 金ヶ崎要害歴史館

当地の歴史文化、侍屋敷の特徴や町並みなど、映像や展示を通して詳しく知ることができます。

開館／9時～17時
休館／月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
観覧料／大人200円、高校生以下無料
TEL 0197-42-3060 FAX 0197-42-3061

① 旧坂本家侍住宅

坂本家は、文政年間(1818～1829)に伊達氏の預足軽から大町氏の家臣となりました。天保元年(1830)に当屋敷を拝領し、主屋を建てています。敷地は560坪あり、主屋の他に生垣、庭が残っています。主屋は桁行8間、梁間4.75間の喰い違い4間取りです。平成21年に復原しました。

公開／9時～17時
休／月・火曜日、年末年始
TEL 0197-42-3088 (祝日の場合は翌日)

② 金ヶ崎神社(旧諏訪社)

前九年合戦の際、源頼義が諏訪の大神に戦勝祈願をし、勝利したため勅請したと伝えられます。本殿は、桁行3間、梁間2間の3間社流造りで、寛保元年(1741)に造られました。境内から東方(北上川、北上山地)の眺望は絶景です。天明5年(1785)菅江真澄が当地で「陸奥胆沢郡須輪神社法楽八景和歌」を詠み、神社に奉納しています。

③ 金ヶ崎城(金ヶ崎要害) (町指定史跡)

金ヶ崎城は古代からの伝承があり、中世にも北上川中流域で軍事上注目されていた場所とされます。城は北上川、宿内川沿いに自然の谷を利用して二の丸、蔵館、本丸、東館、観音館、大庭の六つの郭がありました。江戸時代、城に代わって金ヶ崎要害が置かれました。北上川の浸食が激しく蔵館は消失、大庭を除いた他の郭も一部欠損し、当主であった大町氏は二の丸で治世にあたつといわれます。二の丸は北と西を金堀沢・土塁、南を堀とともに大庭で区切られています。金堀沢による堀跡の景観は藩境の要害を今に伝えています。

④ 白糸まちなみ交流館

開館／9時～17時
休／木曜日、年末年始
TEL 0197-41-2355

③ 金ヶ崎城(金ヶ崎要害)

二の丸

④ 白糸まちなみ交流館

二の丸

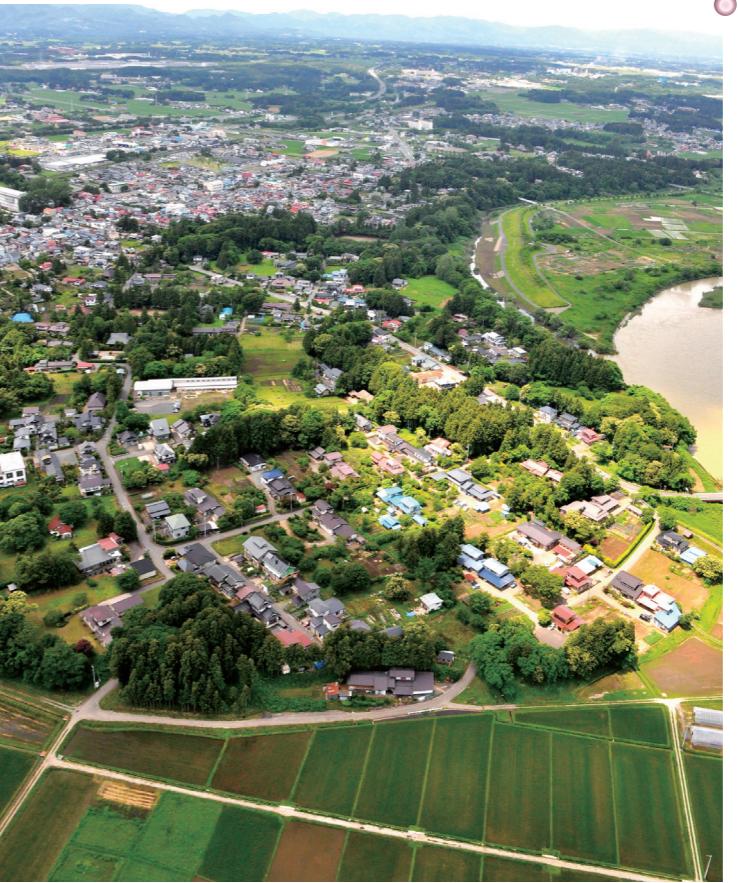
⑨ 片平丁・旧大沼家侍住宅 (町指定文化財)

大沼家は金ヶ崎要害(城)の大庭に沿った屋敷で、主屋、馬屋、庭が残ります。主屋は桁行7.5間、梁間3.5間の広間型3間取りで、18世紀末頃の創建と考えられます。馬屋は明治期に建てられたものですが、当保存地区に唯一残っているものです。平成17年、創建時に復原しました。平成18年に廻を新築し当地方特有の建物配置である三ツ家形式を見ることができます。

公開／9時～17時
休／火・水曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始
TEL 0197-42-5010

凡例

- | | | |
|--|-----|--|
| | トイレ | |
| | 駐車場 | |
| | | |



屋敷の構造

敷地は小路（道路）に面して間口より奥行きが広くなっています。小路に近い方生垣、庭園などから構成されています。小路と敷地の境には石積みと生垣が設けられています。

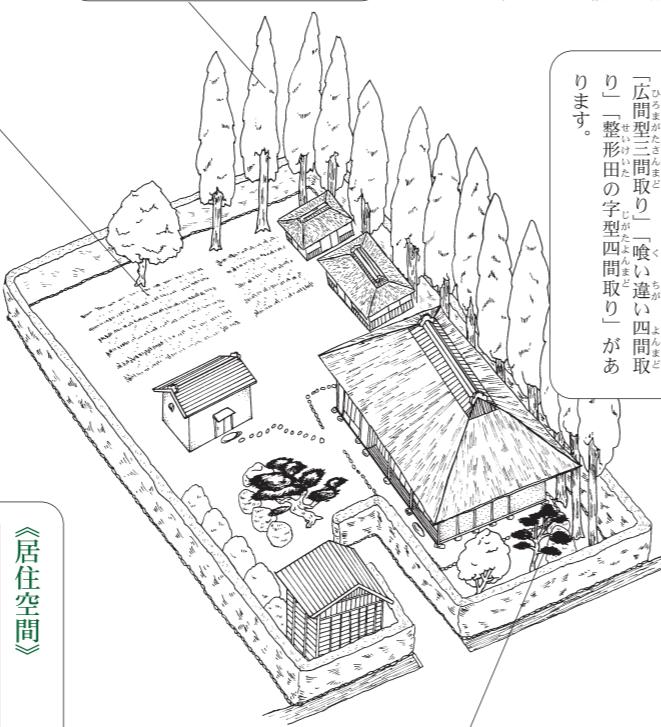
建物は主屋、馬屋、廁が並ぶ三ツ屋形式といわれる配置になっています。また、板倉や土蔵などの付属屋があります。板倉は小路近くに、土蔵は奥に建っていて、双方切妻屋根となっています。

敷地の北西隅には明神様（屋敷神）が祀られています。

《居住空間》

侍住宅の構成

侍住宅（主屋）は直ご家で、茅寄棟造りの大屋根が特徴です。土部（台所部）と座敷部（居住部）大別され、小路に近いほうが座敷になります。殿様が訪れた際に、すこし座敷に通せるようについて話がります。当地区の座敷取りは、「広型三間取り」「狭い違い四間取り」「整形田の字型四間取り」がります。



表情豊かな庭園・樹木群

**城下町の特徴を
取り入れた屋敷入口**



**城下町の特徴を
取り入れた屋敷入口**

入口に門があることは少なく、鉤形や丁字形に敷地内まで生垣が延び、待住宅の玄関が見通せないようになっています。また、入口正面になつています。また、入口正面になつています。また、入口正面になつています。

城下町の特徴を
取り入れた屋敷入口



敷地奥には、生産する空間があり、畑を作ったり、柿・栗などの果樹が植えられています。当時、半士半農の生活をしていたことがうかがえます。



◎居住空間

(屋敷林)

建物の背面に杉、松、雜木等が植えられ、住宅を北風や雪、暑さから守る役割を果たしています。大きくなつた木々は、住宅建て替え時に材料として使用しました。

敷地奥には、生産する空間があり、畑を作ったり、柿・栗などの果樹が植えられています。当時、半土半農の生活をしていたことがうかがえます。

城内諏訪小路重要な伝統的建造物群保存地区（以下城内諏訪小路地区）は、金ヶ崎要害（城）と武家町のほぼ全域にあたります。金ヶ崎要害とは、江戸幕府の一国一城令により、伊達氏が城の代わりとして藩内の要所に重臣とその家臣團を配置し治めさせた「仙台藩三十一要害」のひとつです。北上川と胆沢川の合流点から北西の舌状台地にあり、北上川の西側では最北に位置し盛岡藩との境を接していました。

町並みの骨格は、正保元年（一六四四）、当地に移封された大町備前守頼が整備したと言われています。

武家町は鉤形、樹形及び弓型の道路を組み合わせた七つの小路（道路）にそつて城を囲むように配置されていました。

町人町は、武家町の西側を南北に通る奥州街道沿いに並び、南の南町丁、北の矢来丁に足軽町を配置していました。

[選定年月日] 平成十三年(二〇〇一)六月十五日
[種別] 武家町

[範例] 東西90m 南北80m 面積約4.8ha
〔選定基準〕(二) 伝統的建造物群及び地割がよく保持しているもの

〔保存物件〕 一、建築物 二、九棟

二、
工
作
物
三、
六
牛
二、
二
棟
主
屋
他
(付属屋等)
七
棟

③ 石積み	二 二 件	門 二 件
④ 井戸	五 件	板塀 一 件

三、
⑤土墾
⑦築山
農業物
一件 三件
⑥堀
一件

三 現場物件

②複合環境物件（庭園）

卷之三

《居住空間》

庭の樹種は、桜・松・サルム